

独立行政法人国立病院機構 信州上田医療センター



発行：令和3年1月 発行人：院長 藤森 実

信州上田医療センターの理念

私たちは目指します

- 1)互いに信頼し尊重しあえる関係
- 2)安全で質の高い医療
- 3)情報を共有して納得のできる医療
- 4)地域と連携して安心できる医療
- 5)医療の将来を見すえた健全な経営

【患者さんの権利】

- 1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重される権利があります。
- 2. 良質かつ適切な医療を平等に受ける権利があります。
- 3. 病気・検査・治療・見通しなどについて、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。また、自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 4. 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。そのために担当医以外の医師を考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5. 医療の過程で医療者が知り得た個人情報を守られ、入院中も可能な限り私的な生活が乱されない権利があります。

施設認定

- 地域災害拠点病院(1997.1)
- エイズ治療拠点病院(1997.7)
- 地域周産期医療センター(2000.9)
- 地域医療支援病院(2002.11)
- 災害派遣医療チーム(2008.9)
- 第2種感染症指定医療機関(2009.11)
- 地域医療教育センター(2011.4)
- 臨床研修病院 基幹型(2012.4)
- 地域がん診療病院(2016.4)
- 地域医療人材拠点病院(2019.4)

謹賀新年

新年のごあいさつ



信州上田医療センター院長 藤森 実

明けましておめでとうございます。

去年は人類史上おそらく永久に歴史に残る年になってしまいました。長き歴史のなかで、様々な感染症に打ち勝ってきたことにより、われわれにある種の奢りがあったのだらうと思います。新型コロナウイルス感染症を完全に克服するには、まだまだ時間がかかりそうです。

今一度、謙虚にウイルスというものを理解して対面しなければなりません。ばい菌＝細菌は

一定の条件があれば自分で分裂して増えていきますが、ウイルスは動物の細胞に入り込んで寄生しなければ生きて増えることが出来ません。われわれの体は丈夫な皮膚で防御されていますから、体の中にウイルスが入り込まない限り、ウイルスが細胞内に入り込む事は不可能です。すなわち手に付着しただけではウイルス感染症にはならないのです。常にしっかり手洗いをし、体内にウイルスを入れないよう、吸い込まないようにマスクをする。これを徹底すれば新型コロナウイルス感染症から身を守れるということを正しく理解することが重要です。

当院は、100名を越える新型コロナウイルス感染症患者さんの診断・入院治療を行ってきました。冬期に重要なのは一般の感冒やインフルエンザと新型コロナウイルス感染症を鑑別することですが、症状だけでは見分けが付きません。PCRなどの検査が必須ですが、特に夜間は検査が十分にはできません。発熱など症状があったら、出来るだけ昼間のうちに、かかりつけ医に相談するようお願いいたします。

ひとりひとりの注意と科学の発展で、本年中に平穏な日常に戻ることを祈願いたします。

特集

# 新型コロナウイルス感染症対策の現状について

事務部長 榎田 裕之

新型コロナウイルス感染症は、令和2年11月に入ってから、第3波が長野圏域を始め、全国に広がっており、依然として収束の兆しが見えない状況にあります。

一方、上田圏域では、令和2年8月に飲食店等でのクラスターの発生による第2波の影響が大きかったことと比べると、一進一退の状況にはありますが、何とか圏域内の医療機関で対応されています。

信州上田医療センターにおいても、第2波の厳しい経験から、引き続きの緊張状態を保ちつつ、長野県から重点医療機関に指定されたことから、いざ受け入れを要請されれば、速やかに体制を構築できるよう、準備を進めています。

具体的には、令和2年8月より、職員が院内に感染を持ち込まないように、東京都や感染拡大地域との往来を自粛するよう要請し、県域を跨ぐその他の地域への往来を行う場合には「旅行届」の提出をお願いしております。これは、万が一、職員が感染した場合であっても速やかに感染源の特定と濃厚接触者の洗い出しが可能と

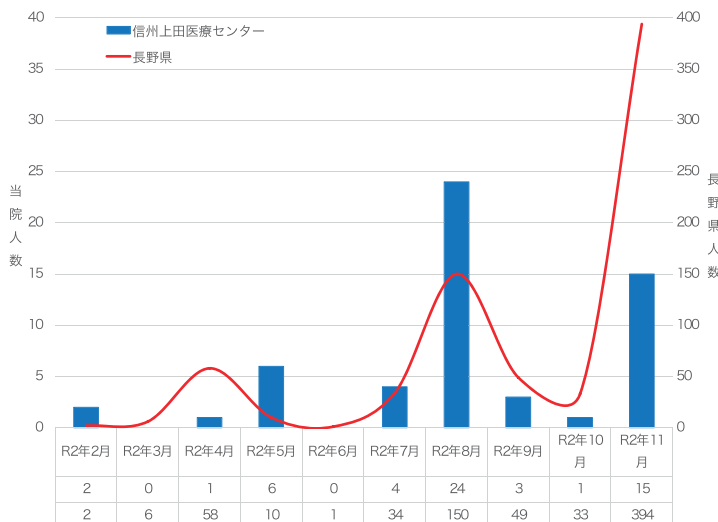
なるよう、職員の健康管理を行い、抗原検査やPCR検査を積極的に行うとともに、厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録を促しております。

なお、当院は引き続き、面会を全面禁止としておりますが、病院側の要請に基づく面会の皆様、付き添いやお届け物持参の方々は、面会受付時に「面会受付票」により、面会内容やその日の体調等を確認させていただきます。

また、当院へ来訪される医療関係者の方々へも極力、東京都や感染拡大地域からの来訪をお控えいただくとともに、やむを得ず来訪される場合にあっても、職員同様に抗原検査等を行っていただくか、その都度「来訪者体調等申告書」の提出をお願いしております（詳しくは当院ホームページをご覧ください）。

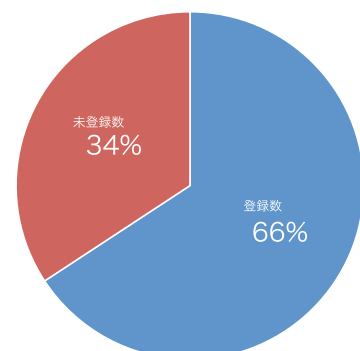
今後とも、信州上田医療センターは、すべての患者さんが安心して受診、入院できるよう、個室利用や感染者と非感染者が交差しない動線確保等の感染予防対策を徹底してまいりますので、引き続き、病院の取り組みにご理解ご協力いただき、地域完結型の医療機関としてご利用くださいますよう、よろしくお願いいたします。

### 新型コロナウイルス感染症新規発生患者数推移



※長野県HP「長野県内における新型コロナウイルス感染症の動向」オープンデータ

### 「新型コロナウイルス接触確認アプリCOCOA」登録割合 n=257件 (令和2年7月～11月届出分)



※当院職員又は職員家族の旅行届の記載状況を集計

特集

## 病院間看護師派遣に感謝

看護部長 渡部 祐子

当院では、新型コロナウイルス感染症患者さんの受け入れを昨年2月のクルーズ船乗客患者さんから始め、その後、上小地域においても発生し、コロナ対応に当たる看護師を概ね3か月目安のローテーションで、心身ともに疲労しないように勤務体制を組み対応してきました。コロナ禍の中、9月には念願の緩和ケア病棟が開設されました。しかし、それに伴い看護師の人員体制上、コロナ対応病棟に配置することが困難となりました。そこで、院長の決断により一般病棟の病床を少し減らして看護師の体制を組みました。それでも通常の入退院や手術等の治療にかかわる看護を安全に提供するためには夜勤体制は崩せません。そこで、看護師人数が不足する日勤帯だけでも県内の病院、国立病院機構からの応援をいただけないか、院長よりお願いしていただきました。

早速、9月には丸子中央病院より1名、柳澤病院より9・10月各1名、国立病院機構小諸高原病院より2名（1名9月30日まで、1名11月30日まで）・東長野病院より4名（毎月1名+3月まで更に2名予定）、助産師では10月に上田市立産婦人科病院より1名の方が来て下さいました。長野県内とはいえ働いたことがない病院に来て応援していただくということは、とても緊張を強いられ気苦労もあり大変だったことと思います。小諸高原病院からの応援では、新型コロナウイルス感染患者さんが入院している病棟で活躍して下さいました。一般病棟の応援ではケアを中心とした患者さんの対応を丁寧にしていただきました。その中でも3名の方から夜勤まで応援していただいたことで、受け入れた病棟職員にとって心身共に救われた思いと他の病院のを知る機会となりとても良い刺激となりました。

この度、各病院より限られた人員の中でお忙しい状況にも関わらず、看護師・助産師を派遣していただいたことに大変感謝申し上げます。また、当院で軽症になった患者さんは、次の受け入れ可能な病院に転院するなど地域医療連携の大切さを改めて実感しております。いつ収束するかわからないウイルスとの闘いですが、引き続き長野県および地域の皆様のご理解とご支援・ご協力をいただくとともに藤森院長の指揮の下、職員が一丸となって毎日の診療・看護に励んで参りますので今後ともよろしくお願いたします。

